

平成20年度名古屋大学入学試験を実施

平成20年度名古屋大学入学試験（一般選抜の個別学力検査）が、2月25日（月）、26日（火）の2日間、東山地区・河合塾千種校・大幸地区の3地区の試験場で行われ、合計1,718名の募集人員に対し、4,866名が受験しました。

試験当日は、豊田講堂前庭やグリーンベルト周辺に受験生が朝早くから集まり、引率教師からの試験前の注意事項



試験会場の様子

に耳を傾け本番に備えていました。また、受験票を片手に緊張した面持ちで来学した受験生を案内する職員や学生の姿がキャンパスのあちらこちらで見られました。

1日目は、午前9時30分から外国語の試験が9学部において一斉に始まり、午後には、理科、地理歴史、小論文の試験が行われました。また、2日目には午前9時30分から数学の試験が、午後2時から国語の試験が行われ、両日とも、平野総長、高橋事務局長が各試験場を訪れ、試験場主任や教職員を激励しました。各学部の試験は2日目の午後3時45分にすべて終了し、受験生はお互いに試験問題について話し合いながら、家路につきました。

また、合格発表は、3月8日（土）正午から豊田講堂において行われました。

災害対策室が新潟県知事から感謝状を贈呈される

2月4日（月）、泉田裕彦新潟県知事から災害対策室に対して感謝状が贈呈されました。これは、2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震について、新潟県災害対策本部が行ってきた活動への災害対策室の支援に対するものです。

災害対策室では、新潟県中越沖地震の発生当日から新潟県庁に入り、専門的知見から災害対応支援を行ってきまし

た。特に、発生翌日の新潟県災害対策本部会議において、知事からの「災害対応の状況をわかりやすく地図化できないか」との要請に応じたかたちで、発生翌々日に産官学民のメンバーからなる「地図作成班」を新潟県災害対策本部内に結成しました。

地図作成班は、日々刻々と変わる災害対応に不可欠な「通水復旧図」「災害状況図」「仮設住宅位置図」などをオンデマンド形式で作成・提供しました。8月10日の活動終了までに約200件の地図を作成し、地域ニーズを反映した災害対応の実現に大きく貢献しました。

この活動は「平成19年新潟県中越沖地震復旧・復興 GIS プロジェクト」という、GIS（地理情報システム）を利用した効果的な災害対応の仕組みを考える新たな「知の創造」プロジェクトに発展しており、災害対策室は、京都大学防災研究所、京都大学生存基盤科学研究ユニット、新潟大学災害復興科学センター、横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センターのメンバーとともに、このプロジェクトも支援しています。



感謝状贈呈式にて（左から2番目が木村災害対策室員）

平成19年度個人情報保護に関する教育研修会を開催

平成19年度個人情報保護に関する教育研修会が、1月31日(木)、国際開発研究科棟多目的オーディトリウムにおいて開催されました。

この研修会は、保有個人情報を取り扱う職員を対象に、個人情報保護に関する意識の高揚を図り、保有個人情報を適正に取り扱うことで、同時に情報漏えい等を防止するこ



講師の話に熱心に聞き入る受講生

とを目的として毎年実施されており、今回は約80名が参加しました。

はじめに、本学の個人情報総括保護管理者である高橋理事から開会のあいさつがあった後、小木曾保幸監査法人トーマツ名古屋事務所マネージャーから、監査人としての視点で、情報セキュリティ管理とその実現について身近な事例を挙げて講義が行われ、次に、竹内義則情報連携統括本部情報戦略室准教授から、情報システム管理者の視点で、情報漏えい等事案の紹介とセキュリティ対策について講義が行われました。

最後に、市橋克哉法学研究科教授から、今年度中に本学で実際に取り扱った入試成績情報及び患者診療情報を中心とした保有個人情報の開示請求等の事例を引き合いに、独立行政法人等の個人情報保護法等に基づく個人情報保護に関する基本的な定義、考え方及び実務上の留意点等について講義が行われました。

保有個人情報の保護に関する社会的な要請がますます強まる中、受講生は、タイムリーな講師の話に熱心に耳を傾けていました。

第36回、第37回防災アカデミーを開催

第36回防災アカデミーが、1月10日(木)、環境総合館レクチャーホールにおいて、災害対策室主催のもと開催され、鷺谷 威環境学研究科教授による「ひずみ集中帯～内陸大地震の謎を解き明かす鍵?～」と題した講演が行われました。

中部地方を縦断する「新潟・神戸ひずみ集中帯」は鷺谷教授らがGPS観測によって発見したもので、2004年中越

地震、2007年中越沖地震と、この帯の中で被害地震が連続発生したことから、今、大変な注目を集めています。今回の講演では、ひずみ集中帯とは何か、そこで何が起きているのか、といった内容について、基礎的な物理法則と観測事実にもとづいた説明がありました。「日本列島全体のひずみのうち半分がひずみ集中帯に集まっているが、残り半分はそれ以外の場所が担っている。地震に対する備えはどこでも欠かせない。」という講演に、114名の参加者は気持ちを引き締めていました。

続いて、2月18日(月)には、第37回防災アカデミーが開催され、高橋誠環境学研究科准教授による「スマトラ津波と復興～私が災害研究に惹かれたわけ～」と題する講演が行われました。

環境学研究科は文理融合の体制でスマトラ津波による災害過程の調査を進めています。高橋准教授はその中心メンバーとしてこれまでに5回現地に入り、主に巨大災害からの復興に関する問題点についての調査を行ってきました。今回の講演では、現地調査からわかってきた住宅再建問題や、海外援助のあり方について、豊富な事例をふまえた話が展開されました。



講演する鷺谷教授



講演する高橋准教授